

## 【姫路市立安富北小学校】の取組

### 「ICT を活用した新しい時代の学び」に関する研究

#### I 主な取組

##### (1) 朝学習でのジャストスマイルドリルの活用

Chromebook の日常使いを進める取組として、朝学習でのジャストスマイルドリルの活用に取り組んだ。どの学年でもほとんどの児童が ID とパスワードを覚え、スムーズにログインできるようになっている。1年生は、1学期に Chromebook へのログインや Google Classroom への入りを練習し、2学期からジャストスマイルドリルを活用した。1年生でも、早い段階で慣れ、教師の支援がなくても、自分たちでジャストスマイルドリルに取り組むことができるようになった。

##### (2) 休み時間の Chromebook 活用

4月に全校生で集まり、Chromebook の持ち方や使い方のルールを確認した。高学年は、日常的に休み時間に調べ学習をしたり、スクラッチをしたりする姿が見られた。休み時間は自由に使ってよいこととしたが、「中間休みと昼休みのどちらかは必ず外へ出る」というルールを決め、Chromebook に依存しないよう対策をとった。

##### (3) 学年に応じた授業での活用

1・2年生 生活科「町たんけん発表会」の発表練習で、自分たちが発表している様子を撮影し、改善に活かした。子供たちは、「早口だから、もっとゆっくり話した方がいい。」「カードを上にあげたほうが見えやすい。」など、動画を見て話し合いながら、積極的に練習に取り組んでいた。



1・2年生発表の様子



発表を聞いて自己評価する姿

##### (4) 他校とのオンライン交流

###### ①安富南小学校との交流

毎年、同じ中学校区の安富南小との小小交流を行っている。令和2年度は、1・2年生が第1回の交流をオンラインで実施。自己紹介や音読の発表などを Google Meet で行い、顔合わせをした。第1回をオンライン交流にしたことで、第2回（オフライン）の交流では、すぐに打ち解けることができていた。

###### ②韓国直指(チッチ)小学校との交流

大阪府立大学の伊井教授からの紹介で、韓国の直指小学校とのオンライン交流が実現した。韓国では、Zoom を日常的に使用しているとのことで、Zoom を使用しての交流となった。



韓国との交流の様子

### 【当日までに】

事前の打ち合わせは、伊井教授、留学生（通訳）、直指小学校教諭、本校教諭で行い、当日の流れなどを相談・確認した。



記念写真

### 【当日】

1・2・3年、4・5・6年の2グループに分かれて、2台のPC（教師用）でオンライン交流を行った。始まる前は、少し緊張した表情の児童もいたが、実際につながると、笑顔で手を振ったり、「教室が似ている！」と、共通点を見つけて喜んだりする姿がみられた。とても温かい交流となり、今後も継続することとなった。実際に会うことは難しいが、オンラインでつながることにより、韓国の文化に触れたり、日本の文化を伝えたりすることができる貴重な機会となった。

## (5) 姫路市新・中学校区群人権教育研修会（中人研）のオンライン開催とサイト作成

令和3年度の中人研は、新型コロナウイルス感染予防のため、オンラインで開催した。開催にあたって、公開する予定の授業を事前に録画した。録画には、Chromebook とビデオカメラを使用した。

	メリット	デメリット
Chromebook	<ul style="list-style-type: none"><li>・動画の容量が小さい。</li><li>・編集しやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ズームができない。</li><li>・声が入りにくい。</li></ul>
ビデオカメラ	<ul style="list-style-type: none"><li>・画質・音質がよい。</li><li>・ズームができる。</li><li>・小さな声も聞こえやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・容量が大きく、編集しづらい。</li><li>・アップロードに時間がかかる。</li></ul>

Google サイトを作成し、授業、板書、ワークシートなどを他校と共有した。ビデオカメラで録画したものは容量が大きく、うまくアップロードできなかつたため、Chromebookで録画したものを使用した。また、当日使用する Meet コードを同サイト内に掲載し、当日の研修会もスムーズに開催することができた。また、授業動画を共有したことで、授業の感想や改善点などを各校で事前に話し合い、考えを共有する時間が確保でき、当日の事後検討会は有意義な研修となった。



「中学校区群・人権教育研修会」サイト



授業動画

## 2 取組の背景

本校の児童は、全校児童 35 人、どの学年も 10 人に満たない少人数の学校である。そのため、同学年の大人数と意見を交流する機会が少ないことが課題であった。逆に、少人数であるがゆえに、一人一人の指導がしやすい。そのため、ICT 機器の使い方を教えたり、新しい活用方法を授業に取り入れたりすることに、取り組みやすい環境である。



小小交流の様子

## 3 取組の経緯

子供たち一人一人に端末を渡すというこれまでにない取組だったので、何から始めればいいのかわからなかったが、まずは、ログインやタイピングなどの練習をクラス全員で行い、その後、休み時間など学習以外の場面で子供たちに端末を使わせてみた。不安は大きかったが、小規模校の特性を活かし一人一人の様子をよく観察しながら活用を進めることができた。子供たちは想像以上に端末に馴染み、授業で活用する際も大きな混乱はなかった。教職員もこの変化に対応できるよう積極的に教職員研修に取り組んだ。

## 4 変容

### (1) 子供たちの変容

これまでの PC 教室でのコンピュータ活用は、限られた教室、限られた台数だったため、一人一人の使用時間は短く、スキルの上達は難しいという問題があった。しかし、1人1台の端末環境と、直感的にわかりやすい Google のアプリのおかげで「文房具」感覚で使えるようになった学年が多い。授業では Google スライドで学習のまとめやカメラアプリを使っての動きの確認や学習の記録、休み時間にはプログラミングツールや画像検索機能、Google フォーム の作成など幅広く使えるようになった。



端末を活用した発表の様子

### (2) 教職員の変容

教員の ICT 活用指導力等の実態調査（令和 2 年度に実施）では、「あまりできない・ほとんどできない」と回答している教員もあり、ICT に対して苦手意識を持っている教員も少なくなかった。しかし、Chromebook の活用研修や知識の共有を通して、教職員の ICT に対する意識は少しずつ向上してきた。また、ICT 支援員の方の補助もあり、日々の ICT に対する疑問や問題をすぐに尋ねたり、相談したりすることができたことも、苦手意識の改善につながった。



教職員研修の様子

### (3) 学校の変容

外部との交流があまり多くなかったが、Google Meet や Zoom を使うことにより、直接の交流よりも簡単に外部との交流ができるようになった。そのため、交流の機会が増え、同じ中学校区の小学校はもちろん、林間学校や自然学校、修学旅行などと一緒にいく小学校や、海外の小学校とも交流するようになった。

## 5 見えてきた課題

少人数であるがゆえに、わざわざ Chromebook を使わずとも、対面での交流や意見の共有が容易であることが多い。そのため、ICT 機器をどの場面でもどのように使用すれば有効的であるかを見極める必要がある。ICT 機器は便利であるが、教師自身が ICT 機器に慣れ、使いこなせるようになるためには、やはり時間がかかる。教員間で情報を共有し、研修を重ねることで、より ICT 機器の活用の幅を広げられるようにしていきたい。

## 6 安富北小学校が目指す「ICT を活用した新しい時代の学び」

Chromebook の導入によって、コロナ渦での他校との交流が容易にできるようになった。そのことは、小規模校にとって大変意義のあることである。ICT 機器を取り入れることで、今までできなかったことが容易にできるようになった。その中で、ICT 機器を使うことを目的とするのではなく、ICT 機器を一つの手段として取り入れる場面を見極めていくことが、これからの教育にとって必要であることがわかった。ICT 機器の効果的な使い方を見極めるためには、教員自身が ICT 機器の使い方を日々アップデートすること、また、教員間での情報共有を大切にして、足並みをそろえて取り組むことが大切だと考える。今回の取り組みを通して見えてきた課題を、今後の教育活動に活かすとともに、ICT 機器の可能性を広げていきたい。



ICT 支援員による放課後研修の様子